

名古屋市の大学生における 定住意向と生活満足度に関する実証分析

椙山女学園大学現代マネジメント学部 野崎ゼミ

岸谷晴菜 鈴木佑佳 多田茉奈佳 村瀬優菜 山田姫奈乃

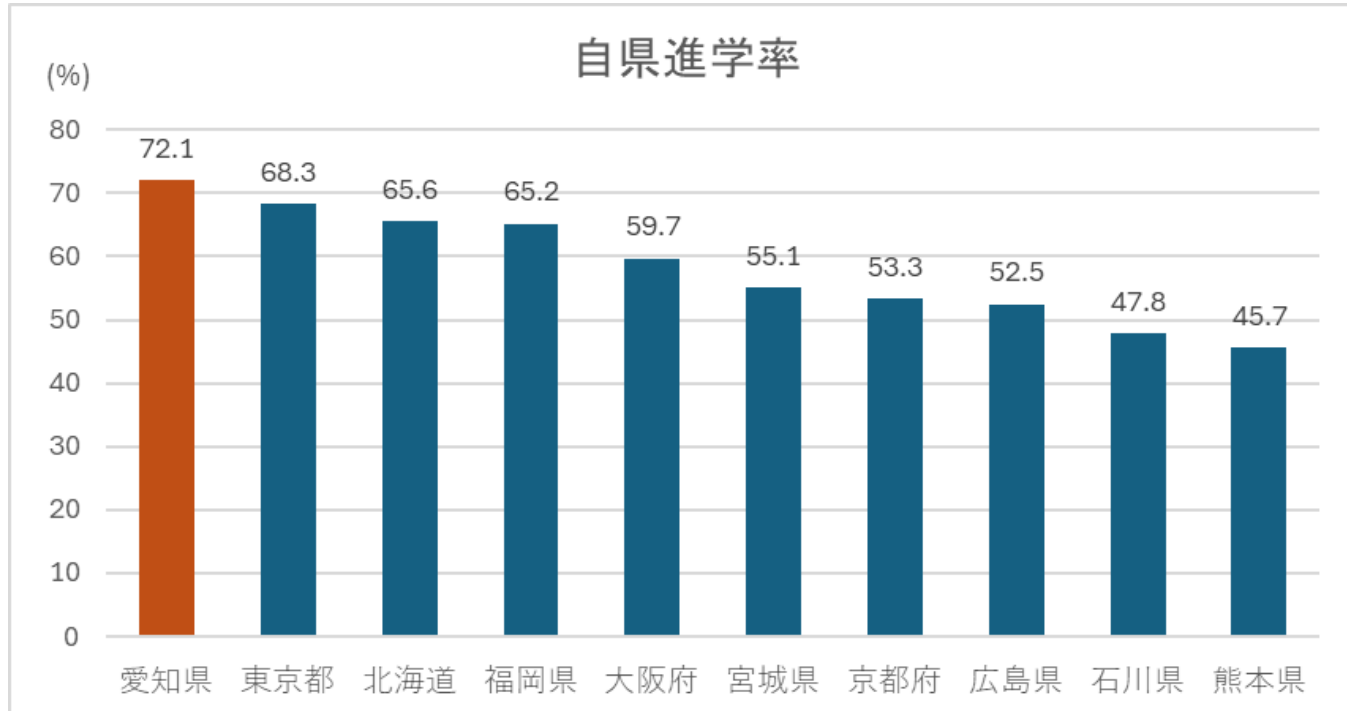
アウトライン

1. 問題の背景と本研究の目的
2. データの基本的な情報
3. 実証分析
 - 3.1 名古屋市定住意向に関する分析
 - 3.2 名古屋市満足度決定要因に関する分析
4. 名古屋市の生活満足度：期待と現実
5. 得られた知見と提言

1. 問題の背景と本研究の目的

Point 1

出身地と同一県内の大学への入学者の割合は全国第1位



資料) 文部科学省「各都道府県における高等教育の現状に関する調査研究」
https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/1418420_00005.htm

自県進学率72.1%が意味すること

→ 愛知県出身者は地元志向が強い.
→ 地元の大学に進学した学生は
卒業後も地元に残りやすい可能性.

× しかし, 他県から進学してきた学生が卒業後も名古屋に定着するかは別問題.

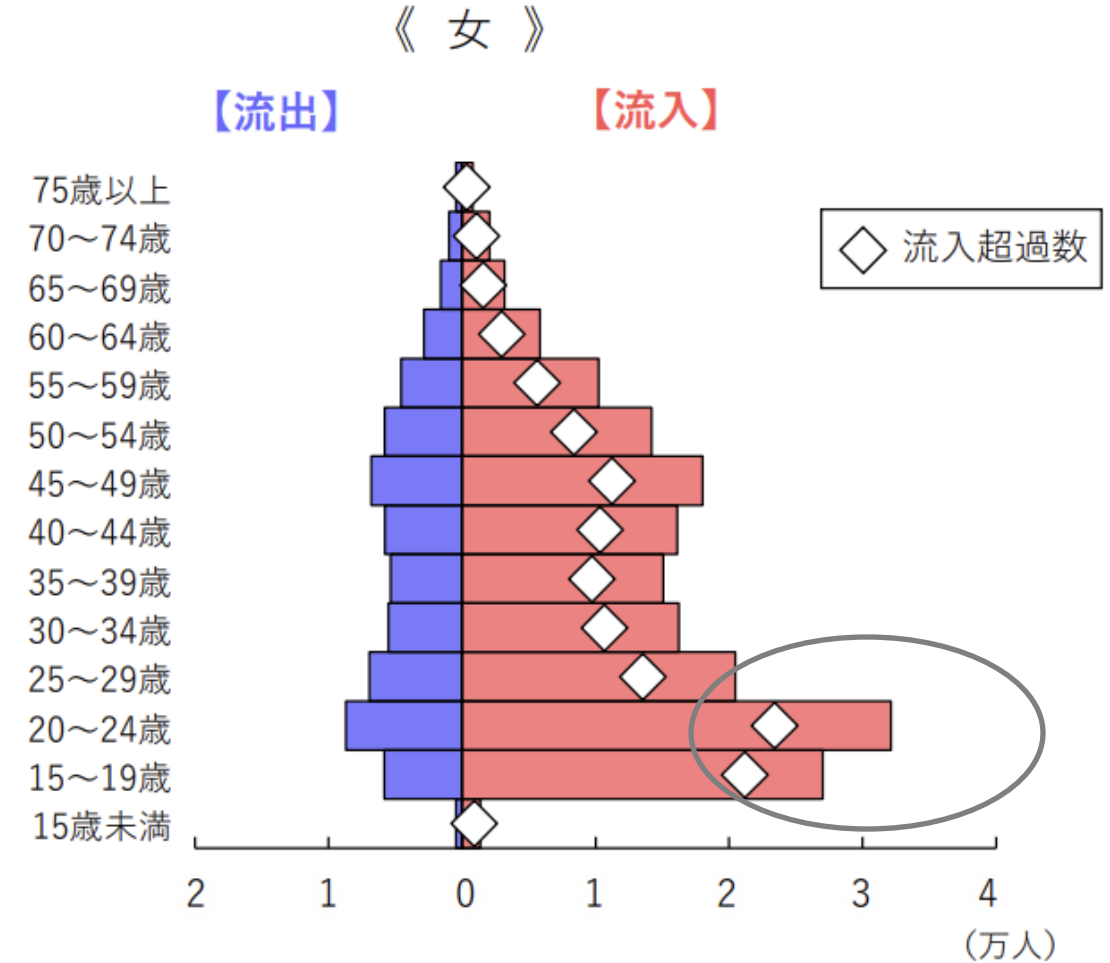
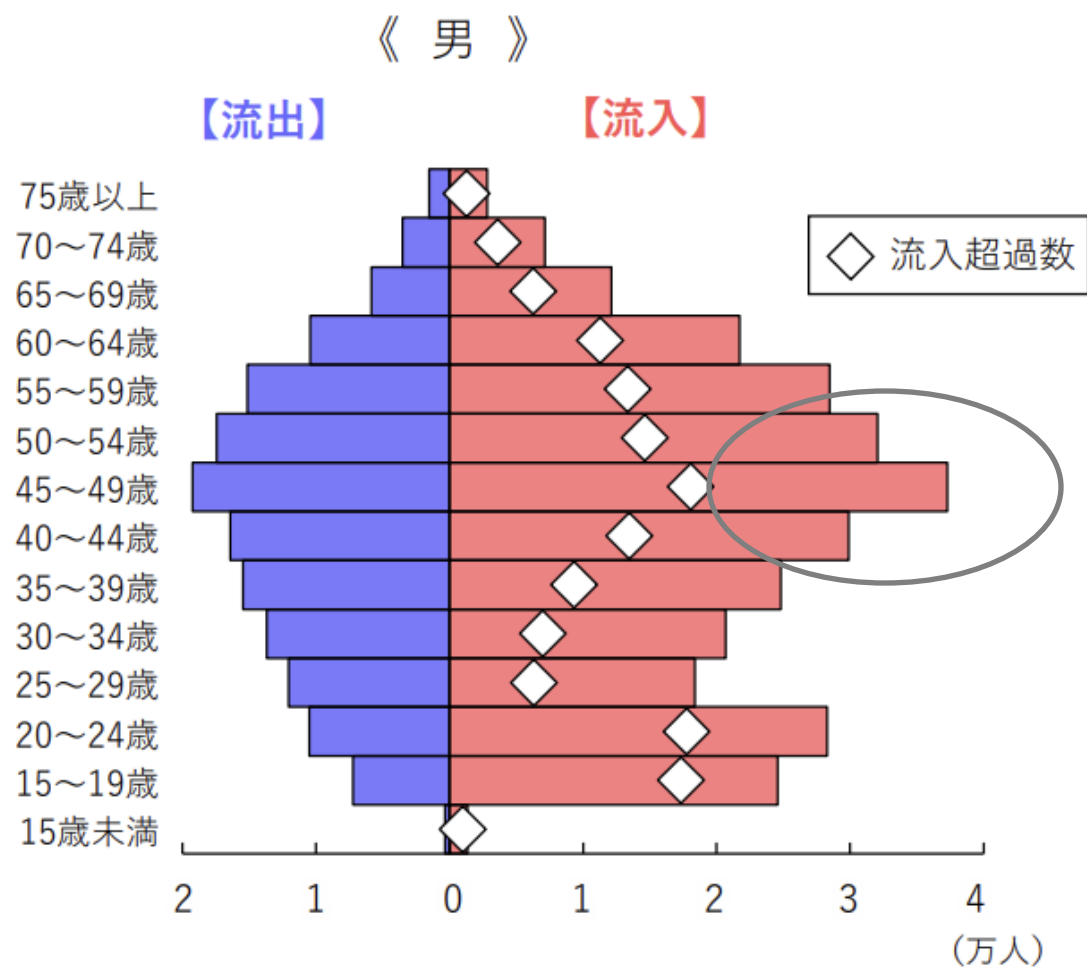
<補足>

県内には53の大学があり, 約40%が名古屋市内に集中.

→ 若者が名古屋に集まる構造.

本研究では, この点を実証的に検証

名古屋市の男女別・年齢別・流入・流出状況



資料) 令和2年国勢調査報告書(名古屋市) 「従業員・通学地による人口・就業状態等集計結果について」

Point 2

来た学生をいかに残すか

1. 流出人口の特徴

女性：若年層（20～24歳）で流出が約1万人.

男性：ピークは中年層（45～49歳）.

→ 若年層で女性の流出が顕著

2. 流入人口の特徴

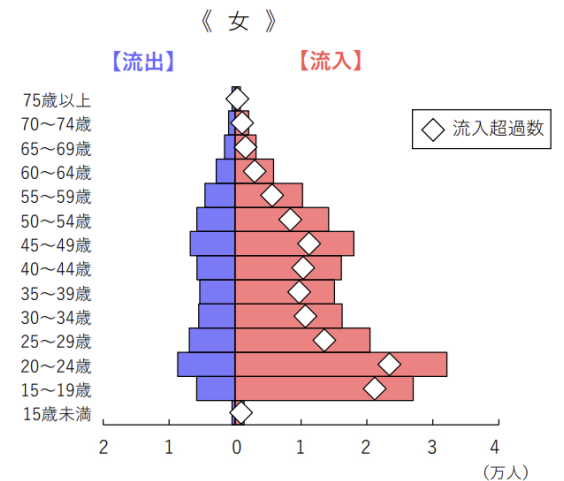
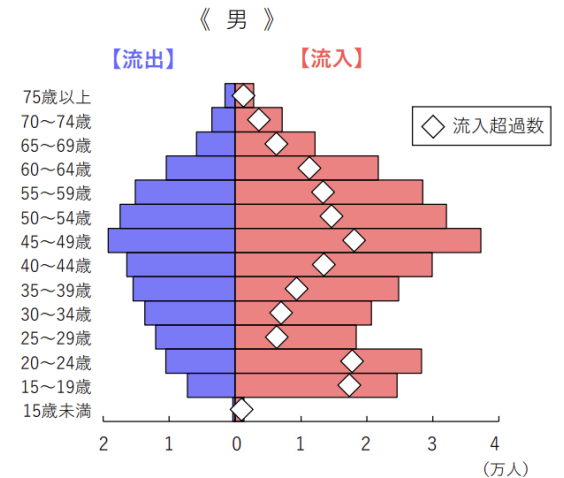
女性：20～24歳で流入が約3.5万人（男性を大きく上回る）

男性：45～49歳で流入が最多.

3. 結果

- ・ 若年女性は大きく流入超過→進学で名古屋市に集まってくる.
- ・ ただし, 流出も一定数存在（関東圏へ）

「来た学生をいかに残すか（特に移動が活発な女性）」が課題



問題の背景

1. 愛知県は地元進学率72.1%で全国1位
大学の約40%が名古屋市内に集中.
→ 若者が集まるポテンシャルは高い.
2. 20～24歳女性は大きく流入超過
進学期に名古屋市に多数流入.
しかし関東圏への流出も一定数存在.
3. 重要な問い
進学で名古屋に来た学生が卒業後も名古屋に残るかどうかは何で決まるのか？

本研究が明らかにすること：3つの問い

RQ1：卒業後も「住み続けたい」と思う要因は？

- 生活満足度の高さ？
- 大学に満足している時？
- 出身地による違いは？

RQ2：名古屋での生活満足度を高める要因は？

- インフラ？経済条件？
- 文化・レジャー？学生支援？

RQ3：学生の期待と現実のギャップは？

- 期待を上回る強みは？
- 期待を下回る弱みは？

本研究の目的：3段階の分析

名古屋市内の大学生を対象とした独自の調査データをもとに

分析1：定住意向の決定要因

└→ 「住み続けたい」という要因を特定
生活満足度が影響するかを検証



分析2：生活満足度の決定要因

└→ 満足度を高める要素を把握
強み・弱みを分析



分析3：期待と現実のギャップ

└→ 入学前の期待 vs 入学後の評価

これら3つの分析を統合し、エビデンスに基づく政策提言を行う

2. データの基本情報と分析の枠組み

調査の概要

分析サンプル:
全変数について完全なデータを持つ
306名を分析対象とした
(complete data set)

実施期間：

2024年11月29日～12月14日

回答数：

有効回答数 318名（男性74名,女性244名）

調査対象：

名古屋市内の大学・大学院に通学
する学生

実施主体：

椋山女学園大学 現代マネジメント学部
野崎ゼミ（2年次）

調査方法：

Googleフォームを用いた
Webアンケート方式

後援：

名古屋市役所 総務局 総合調整部
総合調整課

告知方法：

名古屋市より市内各大学の
広報課等を通じて告知

本調査では、個人を特定できる情報は一切収集せず、得られた回答はすべて数値化された上で統計的に処理され、匿名性を確保して分析を行った。

変数の説明表

変数	説明
settleD	名古屋で暮らし続けたいダミー
life_sat	名古屋暮らし満足度 (1=大変不満～4=大変満足)
univ_sat	名古屋大学満足度 (1=大変不満～4=大変満足)
girl	女性ダミー
age	年齢
house2	一人暮らしダミー
house3	大学の寮暮らしダミー
from_na goya	出身も現在も名古屋在住ダミー
moved_n agoya	大学進学後名古屋市に移住ダミー
commute 60	通学60分未満ダミー
first_uni	現在の大学が第一志望だったダミー

変数	説明
infra	日常生活の利便性 生活インフラ（公共交通・買い物・飲食）
economic	経済的な暮らしやすさ 経済的条件（就業機会・住宅）
urban	都市としての機能 都市機能（アクセス・治安・医療）
culture	豊かな生活・余暇 文化・余暇 (芸術/文化・スポーツ・レジャー・自然)
education	学生にとっての環境 (教育・学習支援)

変数の作成方法（例）

infraダミー＝公共交通・買い物・飲食のいずれかに満足と回答した場合=1

基本統計量

	N	Mean	SD	Min	Max
settled	306	0.73	0.45	0	1
life_sat	306	3.11	0.75	1	4
univ_sat	306	3.21	0.74	1	4
girl	306	0.76	0.42	0	1
age	306	20.18	1.53	18	27
house2	306	0.15	0.36	0	1
house3	306	0.03	0.18	0	1
from_nagoya	306	0.28	0.45	0	1
moved_nagoya	306	0.19	0.39	0	1
commute60	306	0.53	0.5	0	1
first_uni	306	0.64	0.48	0	1
infra	306	0.72	0.45	0	1
economic	306	0.16	0.37	0	1
urban	306	0.32	0.47	0	1
culture	306	0.18	0.38	0	1
education	306	0.12	0.33	0	1

留意事項として:

- ・ settled平均0.73
→ 約7割の学生が名古屋定住を希望
- ・ girl平均0.76
→ 女子学生が約4分の3を占める
(名古屋市内大学生の実態を反映していない)

分析の枠組み

ステップ1：定住意向モデル

目的変数：settleD（名古屋に住み続けたい=1）

主な説明変数：life_sat（名古屋生活満足）, univ_sat（大学満足）

ステップ2：生活満足モデル

目的変数：life_sat（名古屋での生活についての満足度：大変不満=1~大変満足=4）

主な説明変数：生活インフラ, 経済的条件, 都市機能・アクセス, 文化・余暇, 学習環境

両モデルの共通の統制変数

性別（girl）, 年齢（age）, 一人暮らしダミー, 大学の寮暮らしダミー, 名古屋市出身ダミー,
進学後名古屋市に移住ダミー, 通学時間60分未満ダミー, 大学が第一志望ダミー

ステップ3：期待と現実のギャップ

Q21（入学前の期待）と Q23（現在の満足）を項目ごとに比較

期待率・満足率・Met率・Net Gain から「期待を上回った項目／下回った項目」を整理.

3. 実証分析

3.1 名古屋市定住意向に関する分析

名古屋市定住意向に関する分析：モデル

$$\begin{aligned} \text{settleD}_i = & \beta_0 + \beta_1 \text{life_sat}_i + \beta_2 \text{univ_sat}_i + \beta_3 \text{girl}_i + \beta_4 \text{age}_i \\ & + \beta_5 \text{house2}_i + \beta_6 \text{house3}_i + \beta_7 \text{from_nagoya}_i + \beta_8 \text{moved_nagoya}_i \\ & + \beta_9 \text{commute60}_i + \beta_{10} \text{first_uni}_i + u_i \end{aligned}$$

Method

線形確率モデル（LPM*）で推計. Excelでは通常のOLSで推計するため,
ロバスト標準誤差は使えず, 有意性判定がStataとわずかに異なる可能性がある.

*0-1の目的変数をOLSで推計する手法.

名古屋市定住意向に関する分析：推計結果

	Coefficient	std.err.	t	P>t
_cons	0.37	0.35	1.04	0.30
life_sat	0.18	0.04	5.07	0.001
univ_sat	-0.03	0.03	-0.77	0.44
girl	0.05	0.06	0.85	0.40
age	-0.01	0.02	-0.70	0.48
house2	-0.05	0.09	-0.50	0.62
house3	-0.35	0.15	-2.28	0.02
from_nagoya	0.15	0.07	2.21	0.03
moved_nagoya	0.05	0.10	0.56	0.58
commute60	0.07	0.06	1.08	0.28
first_uni	-0.01	0.05	-0.14	0.89

N=306

Adj. R2=0.15

注：緑色は5%水準で有意な変数を示す。

生活満足度が1ポイント
上がると定住意向の確率
が18ポイント上昇する
(ただしスケール1-4依存)

女子ダミーが非有意
→定住意向に性差がない

寮生の係数が負で有意
→もともと名古屋市以外
の出身者が多い可能性

名古屋市定住意向：推計結果と政策含意

推計結果のまとめ

1. 生活満足度が高いほど, 卒業後の定住意向も高い.
2. 名古屋出身の学生は定住意向が高く, 大学寮の学生は有意に低い.
3. 生活満足度が定住意向に影響する一方, 本サンプルと推計で統計的に有意差は確認できなかった.
→ 特に, 女子学生は生活満足度が高いにもかかわらず, 定住意向に性別差がないことは注目に値する.

政策含意

若者定住促進には,

- ① 日常生活の満足度を高める都市政策（インフラ・経済・文化など）
- ② 寮生を地域につなぐ施策

名古屋市定住意向：解釈上の注意

1. 本結果は「関連性」を示すものであり, 因果関係を証明するものではない.
2. 生活満足度と定住意向は相互に影響し合う可能性がある.
3. 観察されていない要因（家族状況, キャリア志向等）の影響も考えられる.

3. 実証分析

3.2 名古屋市の生活満足度に関する分析

名古屋市生活満足度に関する分析：モデル

$$\begin{aligned} \text{life_sat}_i = & \alpha_0 + \alpha_1 \text{girl}_i + \alpha_2 \text{age}_i + \alpha_3 \text{house2}_i + \alpha_4 \text{house3}_i \\ & + \alpha_5 \text{from_nagoya}_i + \alpha_6 \text{moved_nagoya}_i + \alpha_7 \text{commute60}_i + \alpha_8 \text{first_uni}_i \\ & + \delta_1 \text{infra}_i + \delta_2 \text{economic}_i + \delta_3 \text{urban}_i + \delta_4 \text{culture}_i + \delta_5 \text{education}_i + \varepsilon_i \end{aligned}$$

Method

- life_sat (1~4) を「連続変数」とみなしOLSで推計.
- 本来は順序ロジット/プロビットが望ましいが, Excelで推計可能な範囲に限定.
- 係数の符号と相対的な大きさに着目して解釈.
- この分析結果を前節の定住意向分析と比較することで, 「生活満足度」と「定住意向」の関係を考察.

名古屋市生活満足度に関する分析：推計結果

	Coefficient	std.err.	t	P>t
_cons	1.40	0.48	2.91	0.001
girl	0.19	0.08	2.27	0.02
age	0.03	0.02	1.16	0.25
house2	-0.21	0.13	-1.65	0.10
house3	0.00	0.21	-0.01	1.00
from_nagoya	0.20	0.09	2.08	0.04
moved_nagoya	0.23	0.13	1.68	0.09
commute60	0.17	0.09	1.96	0.05
first_uni	0.21	0.07	3.02	0.00
infra	0.76	0.08	10.02	0.00
economic	0.20	0.09	2.12	0.04
urban	0.25	0.07	3.46	0.00
culture	0.23	0.09	2.66	0.01
education	0.34	0.10	3.28	0.00

N=306

Adj.R2=0.43

定住意向モデル結果との相違

- ✓ girl（女子学生）のパラドックス
 - 生活満足度：有意にプラス（ $p=0.02$ ）
 - 定住意向：有意な影響なし（ $p=0.39$ ）
- ✓ first_uni（第一志望）のパラドックス
 - 生活満足度：有意にプラス（ $p=0.001$ ）
 - 定住意向：有意な影響なし（ $p=0.89$ ）

注：5%水準で有意な変数を濃い青色で、
10%水準で有意な変数を薄い青色でハイライトした。

名古屋市生活満足度に関する分析：推計結果のまとめ

1. 女子学生, 名古屋出身の学生, 第一志望で入学した学生ほど生活満足度が有意に高い.
2. インフラ・都市機能・文化・教育・経済面を高く評価する学生ほど満足度が高い.
3. 一人暮らしの学生は生活満足度がやや低い傾向がある
(10%水準で有意)

重要な発見

女性と第一志望入学者は生活満足度が有意に高いにもかかわらず、定住意向には影響を与えない.

→生活満足度は定住意向の必要条件だが十分条件ではない. 他の要因(キャリア展望, 人的ネットワーク等)も重要である可能性あり.

名古屋市生活満足度に関する分析：政策含意

若者の定住促進には、生活満足度の向上だけでは不十分



1. インフラ・都市機能・文化・教育への投資により生活満足度を高めることが重要.
2. しかし、満足度が高くても定住意向につながらない層（特に女性）が存在することに留意が必要.



入学前の期待と現実のギャップを分析し、満足度と定住意向の乖離について考察する.

4. 名古屋市の生活満足度：期待と現実 McNemar検定による検証

分析の視点：「期待」は叶ったか？

1. 何を比較したか？（ビフォー・アフター）

- ・同じ学生に聞いた「入学前の期待」と「入学後の満足」を比較.
- ・「期待以下だった」のか「期待以上だった」のか, その変化を分析.

2. 指標の見方

① Net Gain（ギャップ指数）：期待と現実の差

- ・満足% - 期待%で計算.
- ・プラス (+)：「思ったより良かった！」（嬉しい誤算）
- ・マイナス (-)：「期待外れだった…」（ガッカリ）

② Met Rate（叶った率）：期待は報われたか？

- ・入学前に（名古屋市での生活の各項目について）
「期待していた人」が, 入学後に「満足できた」割合.
- ・高スコア：大学の強み（期待通り！）
- ・低スコア：大学の課題（期待させておいて裏切った）

※単なる偶然のバラつきを排除するための統計的な検定を実施した.

名古屋市大学生の生活満足度調査：事前期待と事後評価の比較分析

多重比較補正（ボンフェローニ法）適用済み

項目	Net Gain	期待値 (%)	満足度 (%)	Met Rate(%)	元の p値	補正後 p値	統計的判定	解釈
【期待を上回った項目】								
東京圏・大阪圏へのアクセスの良さ	+5.0	18.3	23.3	56.4	0.350	1.000	非有意	実際に利用して便利さを実感した可能性
買い物が便利	+4.7	34.3	39.0	59.2	0.380	1.000	非有意	生活してみて都市機能の充実を評価
家賃や地価が安く住宅事情がよい	+0.4	5.3	5.7	31.2	0.950	1.000	非有意	わずかながらポジティブ
【期待を下回った項目】								
教育や学習支援の充実	-14.0	26.3	12.3	29.1	0.001	0.014	有意**	最大のギャップ 大学のサポート体制への不満の可能性
就業機会が多い	-8.4	19.7	11.3	37.3	0.080	1.000	非有意	就職活動を通じて現実を知った可能性
レジャー・レクリエーション施設の充実	-7.0	12.0	5.0	22.2	0.220	1.000	非有意	met_rate*が低い
治安がよい	-6.7	16.0	9.3	31.2	0.180	1.000	非有意	生活して期待とのギャップを感じた可能性
【高い満足度を維持した項目】								
公共交通機関の充実	-3.4	62.7	59.3	70.2*	0.450	1.000	非有意	最も高い期待値を維持・名古屋の強み
飲食店が充実	-2.0	26.7	24.7	58.8	0.520	1.000	非有意	高い満足度を維持

*Met Rate = 期待していた人のうち、実際に満足できた人の割合 **多重比較補正後も統計的に有意（補正後p =0.014）

名古屋市生活満足度 期待と現実：結果の解釈

○期待を上回った項目(Net Gain)

首都圏・大阪圏へのアクセス, 買い物の利便性, 住宅費の安さ

→ 実際に住んで便利さを実感. 期待していなかった学生も満足.

※統計的には非有意だが, 実際の利用を通じて評価が向上.

○期待を下回った項目(Net Gain)

教育・学習支援

→ 期待に対し満足は半減. 補正後も統計的に有意.

就業機会, レジャー施設, 治安

→ 期待していた学生の2~3割しか満足できず

※統計的には非有意だが, Net Gainの大きさから実務的に重要.

○高い満足度を維持した項目(Met Rate)

公共交通機関, 飲食店の充実

→ 期待していた学生の7割が満足. 名古屋市の確固たる強み.

名古屋市生活満足度 期待と現実：政策含意

1. 名古屋の強みは「アクセス・買い物・公共交通・飲食」
2. 教育支援（統計的に有意）・就職支援・レジャー・治安は重点的な強化ポイント.
3. 統計的有意性と実務的重要性を区別し, 期待と現実（Net Gain）の符号や大きさも考慮した総合的な改善戦略が必要.

5. 3つの分析から得られた知見と提言

3つの分析から読み取れたこと

基本的な関係

1. 生活満足度が高い学生ほど、定住意向が高い傾向がある。
2. 生活満足度は、インフラ・都市利便性・文化・教育・経済面を高く評価するほど高い。

重要な発見：生活満足度と定住意向の乖離

3. 女性、第一志望入学者は生活満足度が有意に高いが、定住意向に性別差はない。
→生活満足度だけでは定住につながらない層が存在。

期待と現実のギャップ

4. 名古屋市の強み：アクセス・買い物・公共交通・飲食
強化の余地：教育支援（統計的に有意）・就職支援・レジャー・治安

得られた政策の方向性 (1)

1. 強みとして評価されている「アクセス×買い物×公共交通×飲食」
→若者向け都市イメージとして今後も維持・発信していく価値あり.
2. 教育・学習支援（多重比較補正後も統計的に有意）、就職支援、
レジャー環境, 安全安心の評価.
→教育支援は統計的に証明された課題, 他は実務的に重要.
若者定住を考えるうえで今後の検討候補となる分野.

※「因果効果」ではなく今回のデータから見えた傾向であることに留意する.

得られた政策の方向性 (2)

3. 満足度が高くても定住につながらない層への対応

- ・ 女性：満足度は高いが定住意向に性別差なし。
→女性のキャリア形成支援を強化し、都市の高い生活満足度を定住意向に結びつけるための施策（Uターン・Iターン抑制策）を検討。
- ・ 第一志望入学者：
→第一志望で入学し、卒業後も名古屋市内に就職したOBOGとのメンタリングや交流。

4. 特定層へのターゲット施策の重要性

- ・ 地元出身でない学生・寮生は定住意向がやや低い傾向。
→地域とどうつながかは、今後の政策・施策設計の論点。

※「因果効果」ではなく今回のデータから見えた傾向であることに留意する.

本研究の限界 (1)

1. 因果関係までは断言できない

生活満足度が高いから定住したいのか, 定住したいから満足度が高いのかは同時に決まっている可能性がある.

2. 満足度をOLSで扱っている

1~4の回答は順序データなので, 順序ロジットなどを使うのがより望ましいが, 今回はExcelでも扱えるOLSで近似した.

3. 取り切れていない要因がある

家計状況, 成績, 性格, ゼミ・サークルなどはいれられていない.
→ 結果は「一部の要因」だけを見ている.

本研究の限界 (2)

4. 調査対象は「ある年の大学生」に限られる
他の年代・他都市にもそのまま当てはまるとは限らない.
5. 期待と現実のギャップ分析の限界
→Q21が3つまでの複数回答のため, 項目間の独立性が完全ではない.
6. 定住意向と実際の定住行動は異なる可能性
学生時点での「意向」が卒業後の実際の行動につながるかは
追跡調査が必要.

本研究の今後の課題

1. 追跡調査

複数学年・複数年度→時間変化の検証.

卒業生→意向と実際の定住行動の関係を検証.

2. データ拡張

家計・成績・活動状況などのデータを収集し, 分析の精度を向上.

3. 手法の高度化

生活満足度：順序ロジットなどを用いて推計, 確認.

期待と現実のギャップ分析：多変量解析による項目間の関係性の検討.

ご清聴ありがとうございました

別添：相関行列

	settled	life_sat	univ_sat	infra	economic	urban	culture	education
settled	1.0000							
life_sat	0.3530	1.0000						
univ_sat	0.0763	0.3327	1.0000					
infra	0.2781	0.5085	0.0800	1.0000				
economic	0.1305	0.1843	0.1008	0.0175	1.0000			
urban	0.1155	0.2396	0.0229	0.0932	0.1358	1.0000		
culture	-0.0068	0.1967	0.0645	0.1148	-0.0423	0.0163	1.0000	
education	0.0514	0.1576	0.1339	-0.0541	0.1820	-0.1075	0.0336	1.0000

	infra	economic	urban	culture	education
infra	1.0000				
economic	0.0175	1.0000			
urban	0.0932	0.1358	1.0000		
culture	0.1148	-0.0423	0.0163	1.0000	
education	-0.0541	0.1820	-0.1075	0.0336	1.0000